

委託事業実施内容報告書
令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人PEACE

1. 事業の概要

事業名称	ミャンマー難民、コミュニティの社会参加に向けた日本語教育の拠点整備
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	令和元年10月現在、東京都内の在留外国人の中で、ミャンマー人は10,395人と全体の9位となっていた。新宿区、豊島区、北区に約半数が集住していた。一定の規模を持ったエスニックコミュニティが形成される中、日本語の習熟度が低いまま、日本人と日本語で意思疎通を図り、生活する機会を十分に持てていない人たちが存在する現状があった。弊法人では、ミャンマー難民、コミュニティに向けた日本語教育活動に取り組んできたが、依然として日本語教育活動の観点からみると、以下の3点が課題であった。 1) 当該地域の日本語教室は、平日に開催されるところが多く、平日は仕事で日曜の夕方のみ時間が確保できる、といった傾向の強いミャンマーの人たちが日本語教室に通えない面があった。学習希望者の日本語レベル、ニーズに対応したカリキュラムが見当たらない面があった。さらに難民として暮らす人たちの来日初期の日本語学習が十分でないという面があった。 2) ミャンマー人のコミュニティによる持続可能な日本語教育事業のモデルが確立されていない面があった。 3) 従来の日本語教室がミャンマー人の学習者にとって必ずしも地域社会との接点になっていない面があった。
事業の目的	本事業の目的は、令和元年度に取り組んだ日本語教育事業の成果を発展させ、東京都内を中心とした在留ミャンマー人が、エスニックコミュニティ内で閉ざされた生活を送るのではなく、日本語で地域の人たちと意思疎通し、社会の一員として生活を送ることができるようにすることであった。 具体的には、以下の3点であった。 (1) 東京都及び近郊に暮らすミャンマーの人たちが通いやすい、日曜夕方に開講する。ミャンマーの人たちの日本語レベル、ニーズに対応した日本語学習の機会を確保する。難民として暮らす人たちに学びなおしの機会を提供する。 (2) 在留ミャンマー人の中から、日本語教育、運営を担う人材を育成するとともに、独自の教材を作成し、自立した運営モデルを確立する。 (3) 日本語教室の場に地域住民や企業、大学生、教育関係者を招いて講師となっていたり、ワークショップを開催するなど、相互に学びあう地域社会との対話の拠点を整備する。
本事業の対象とする空白地域の状況(空白地域を含む場合のみ記入)	
事業内容の概要	取組1：令和元年度の成果を受け、学習者の日本語レベルの初級、中級、上級のクラス分けを精緻化した上で、それぞれの日本語レベルに合わせ、カリキュラムについて示されている生活上の行為の中で、ニーズの高い項目を中心にカリキュラムを構成した。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、一部でオンラインによる学びの機会を創出し、学習者の学習意欲の向上、持続につなげた。 取組2：日本での生活経験が長いミャンマーの人たちに日本人指導者の補助として配置し、経験を蓄積した。また新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、オンラインにより令和元年度に行った研修内容を改善し、カリキュラムガイドブック、カリキュラムについて、カリキュラム教材例集、能力評価、指導力評価を理解し、行動に移せるように努めた。指導力評価のチェックシートに沿って、評価を行い、指導力の向上に努めた。 取組3：教材作成では、カリキュラムガイドブック、カリキュラムについて、カリキュラム教材例集、能力評価を参照しつつ、学習者のニーズに合わせたミャンマー語との対訳教材を指導者、日本での生活経験が長いミャンマー人、地域日本語教室の関係者等により作成し、持続的な運営に向けた道筋を確立した。
事業の実施期間	令和2年6月～令和3年3月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	マリッブ・センブ	特定非営利活動法人PEACE・理事長
2	宗田勝也	特定非営利活動法人PEACE・事務局長
3	石原進	移民情報機構・代表
4	玉井英雄	福島会計事務所・会計士
5	石川美絵子	日本国際社会事業団・常務理事

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年7月17日 (金) 16:00～18:00	2時間	オンライン	マリッブ・センブ、宗田勝也、石原進、玉井英雄	1. 日本語教室運営の方法 2. コロナ禍への対応
2	令和2年11月16日 (月) 14:00～16:00	2時間	インヒム事務所(東京都中央区)	マリッブ・センブ、宗田勝也、石原進、玉井英雄	1. コロナ禍への対応

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	新型コロナウイルス感染症の拡大を受ける中、新宿区役所、保健所、日本語学校、企業などとの連携を進めた。指導者、補助者と知見を共有し、受講者の学びを充実したものとした。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<p>中核メンバーは、令和元年度の取り組みを踏まえて以下に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none">・運営委員と「カリキュラムガイドブック、カリキュラム案について、カリキュラム教材例集、指導力評価、能力評価、ハンドブックの目的」を共有した。その上でカリキュラムの進捗を適宜、運営委員会に報告した。・コーディネーターは、新宿区役所、保健所、日本語学校、企業などの関係機関・団体と連携し、新型コロナウイルス感染症のもとで日本語教室の継続的な開催をサポートするとともに、学習者のニーズへの理解を深めてもらった。・指導者は、新型コロナウイルス感染症の影響のもと、学習者のニーズを適切に把握し、随時、進捗・教授法を点検し、円滑な教室運営を行った。・事業責任者は、在日歴の長い先輩ミャンマー人の立場から、学習者の生活状況やニーズを把握し情報を共有した。
----------	---

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:ミャンマー難民、コミュニティの社会参加に向けた日本語教育】										
取組の目標	1)生活者として、日本人と日本語で意思疎通を図る日本語を参加型の学びを通して獲得した。難民特有の事情等により、来日当初の学習期に一般の日本語教室に参加しにくいケースを解消する。 2)来日当初の日本語学習が十分にできなかった人たちに学び直しの機会を提供する。 3)新型コロナウイルス感染症のもと、エスニックコミュニティが、地域社会の中で閉じたものとならないよう、地域住民や関係団体を巻き込んだ日本語教室づくりを行う。									
内 容	1)毎週日曜日夕方に教室を開講した。日本語レベル別に3クラスを設けた。カリキュラムについて示されている生活上の行為の中で、特にニーズの高い「健康を保つ」、「安全を守る」、「社会の一員となる」、「情報を収集・発信する」といった項目に焦点を当て、カリキュラムについて、カリキュラム教材例集、能力評価を参照し、参加型のカリキュラムを提供した。また学校からの保護者への連絡、在留資格の更新といった点についても盛り込んだ。 2)多民族国家であるミャンマーの各民族に参加を呼びかけ、一部のグループではなく、多様なバックグラウンドを持った人たちが参加できるよう配慮した。 3)新型コロナウイルス感染症の拡大、緊急事態宣言を受け、オンラインによる教室開催を試行した。									
実施期間	令和2年7月26日～令和3年3月14日				授業時間・コマ数	1回2時間 × 30回 = 60時間				
対象者	ミャンマー難民、コミュニティの人々				参加者	総数 45人 (受講者 36人, 指導者・支援者等 45人)				
カリキュラム案活用	・ガイドブックの生活上の行為一覧を参照して学習者のニーズを把握した ・カリキュラム案についての活用例(実践例)をカリキュラムに反映した ・教材例集の医療機関マップなどを地域の中で検討する機会を設けた									
使用した教材・リソース										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	ミャンマー国(36人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和2年7月26日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	36	自己紹介	自己紹介	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	3名		
2	令和2年8月2日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	34	文字と会話、文法	数字1~100, 何歳	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	3名		
3	令和2年8月23日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	32	文字と会話、文法	電話番号、数字100~100000	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	2名		
4	令和2年8月30日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	32	文字と会話、文法	物の名前、何ですか?誰ですか?	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	2名		
5	令和2年9月6日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	30	文字と会話、文法	これそれあれどれ	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	3名		
6	令和2年9月13日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	30	文字と会話、文法	時計、時間	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名		
7	令和2年9月20日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	28	文字と会話、文法	午前、午後、朝昼晩、何時から何時まで	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名		
8	令和2年9月27日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	28	文字と会話、文法	ここそこあそこどこ	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名		
9	令和2年10月4日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	26	文字と会話、文法	曜日、何曜日、でした、じゃありませんでした	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名		
10	令和2年10月11日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	24	文字と会話、文法	天気、ごみの種類	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名		
11	令和2年10月18日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	24	文字と会話、文法	フォーマル、インフォーマルな場でのマナー	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名		
12	令和2年10月25日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	24	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	2名		
13	令和2年11月1日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、スペース場	24	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名		

14	令和2年11月8日(日) 17:00~19:00	2	PEACE事務所	24	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名
15	令和2年11月15日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	24	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名
16	令和2年11月22日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	24	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名
17	令和2年11月29日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、新宿リサイクルセンター	24	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名
18	令和2年12月6日(日) 17:00~19:00	2	戸塚地域センター、ワンコイン会議室高田馬場	20	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名
19	令和2年12月13日(日) 17:00~19:00	2	PEACE事務所	20	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	寄田恭直 五月女雄吾 内山みどり	4名
20	令和2年12月20日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
21	令和3年1月10日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
22	令和3年1月17日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
23	令和3年1月24日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
24	令和3年1月31日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
25	令和3年2月7日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
26	令和3年2月14日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
27	令和3年2月21日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
28	令和3年2月28日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
29	令和3年3月7日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	基礎漢字の習得、特定の場所での会話、正しい文法の習得	内山みどり	4名
30	令和3年3月14日(日) 17:00~19:00	2	オンライン	12	文字と会話、文法	まとめ	内山みどり	4名

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第20回 令和2年12月20日】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンラインによる授業を行った。講師、学習者ともに慣れない中で、確認の頻度を増やし授業を進めた。

○取組事例②

【第21回 令和3年1月10日】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンラインによる授業を行った。使用しているデバイスによって画面が小さい学習者に対して、日本語をより大きく示すなど工夫を行い、授業を進めた。

(2) 目標の達成状況・成果

アンケートの回答状況や聞き取りを通して以下のような状況であることが分かった。

- 1)新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、ミャンマー難民、コミュニティの人々が休職や解雇など生活面で困難な状況に置かれる中ではあったが、参加しやすい学習環境を構築できた。
- 2)新型コロナウイルス感染症という危機へのへの対応など、必要な生活情報・行政情報にアクセスできるようになり、生活状況の維持につなげることに役立った。

(3) 今後の改善点について

新型コロナウイルス感染症の拡大や、それに伴う三密回避の徹底によって、対面の教室運営は常に中断の備えが必要となることが分かった。オンラインによる教室運営を一部、試行したが、日本社会で普及しているSNS(例えばLINE)とは異なる方法でコミュニケーションをとっているミャンマーの学習者との円滑な連絡、スマートフォンの利用率が高く、PC、タブレットの対応が困難な学習者に向けた効果的な授業の実施など、ウィズ、アフターコロナの対応が今後の課題である。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:ミャンマー難民、コミュニティの社会参加に向けた日本語教育人材養成】

取組の目標	日本で暮らす期間が長く、将来的に日本語教室の運営を担う人を対象に、講師補助に配置するとともに、その人たち、その候補者を対象にして、(1)日常生活に必要な日本語能力習得のための日本語教育プログラムを作成、実施する上で必要な能力を身につける。(2)カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施とその振返りができるようになる—の2点を目的に研修を実施する。
内 容	新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、オンラインで実施することとなり、「世界と日本」「異文化接触」「言語と社会の関係」「言語使用と社会」「異文化コミュニケーションと社会」について学んだ。

実施期間	令和2年8月21日～令和2年9月19日	授業時間・コマ数	1回 3時間 × 10回 = 30時間
------	---------------------	----------	---------------------

対象者	ミャンマー難民、コミュニティの人々、コミュニティリーダー	参加者	総数 7人 (受講者 6人, 指導者・支援者等 1人)
-----	------------------------------	-----	--------------------------------

カリキュラム案活用	指導力評価の日本語教育プログラムの点検を通し、あるべき教室像を検討、共有した。
-----------	---

使用した教材・リソース	
-------------	--

受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	ミャンマー(6人)									

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年8月21日(金) 19:00~21:00	3	オンライン	6	社会・文化・地域	世界と日本	宗田勝也	
2	令和2年8月22日(土) 19:00~21:00	3	オンライン	6	社会・文化・地域	世界と日本	宗田勝也	
3	令和2年8月28日(金) 19:00~21:00	3	オンライン	6	社会・文化・地域	世界と日本	宗田勝也	
4	令和2年8月29日(土) 19:00~21:00	3	オンライン	6	社会・文化・地域	異文化接触	宗田勝也	
5	令和2年9月4日(金) 19:00~21:00	3	オンライン	6	社会・文化・地域	異文化接触	宗田勝也	
6	令和2年9月5日(土) 19:00~21:00	3	オンライン	6	社会・文化・地域	異文化接触	宗田勝也	
7	令和2年9月11日(金) 19:00~21:00	3	オンライン	6	社会・文化・地域	異文化接触	宗田勝也	
8	令和2年9月12日(土) 19:00~21:00	3	オンライン	6	言語と社会	言語と社会の関係	宗田勝也	
9	令和2年9月18日(金) 19:00~21:00	3	オンライン	6	言語と社会	言語使用と社会	宗田勝也	
10	令和2年9月19日(土) 19:00~21:00	3	オンライン	6	言語と社会	異文化コミュニケーションと社会	宗田勝也	

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 令和2年8月21日】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンラインによる研修を行った。ITに関する習熟度の違いなど、課題を洗い出しつつ進めることとなった。

○取組事例②

【第10回 令和2年9月19日】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンラインによる研修を行った。オンラインを通して学習者が教える際の練習なども取り入れつつ進めることとなった。

(2) 目標の達成状況・成果

新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、参加者へのヒアリングを通して、以下のことが分かった。

・コミュニティリーダーは日常生活を切り開いてきたことによって、日本の制度や慣習を理解しているが、場合によっては事実と異なる理解をしていることもあった。そのため日本語を教える側になる際、日本社会における基礎的で正しい知識の獲得が重要となる。一方、就職や留学が目的の人は日本語によるコミュニケーションは可能だが、エスニックコミュニティの中で生活が完結してしまうこともあり、日本社会とつながることが課題であり、両者がともに学ぶ機会を創出することで課題の克服に向けた道筋が明らかとなった。

(3) 今後の改善点について

コミュニティリーダーが日本語教育を担う人材となるため、十分な学びの時間が必要となるが、仕事やコミュニティ内のソーシャルワーク的な仕事で多忙であり、時間の確保が難しい。さらにコロナ禍において、日常生活の維持が何よりも重視されるため、学びの時間は制約を受けることが想定される。オンラインによって実施したが、ITスキルの習熟度が異なるため、効果的な研修の実施が課題である。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：ミャンマー難民、コミュニティの社会参加に向けた日本語教育教材作成】			
取組の目標	受講者の日本語レベル、ニーズに対応した教材を作成することにより、日本語学習のモチベーションを維持、向上する。		
内 容	能力評価内における生活上の行為の事例一覧の中で、特に学習者からのニーズが高い、「健康を保つ」、「安全を守る」、「社会の一員となる」(特に住民としての手続をする)、「情報を収集・発信する」を取り上げた。学校からの連絡や在留資格の更新、コロナへの対応といった内容に関連した項目も一部で取り上げた。その上で日本語レベルの初級、中級、上級に対応した教材作成を目指した。令和2年度はこのうち中級レベルの教材作成に取り組んだ。		
実施期間	令和 2年 6月 15日～令和 3年 2月 20日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 114回 = 228時間
対象者	ミャンマー難民、コミュニティの学習者	教材の頁数	228 ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案の生活上の事例に対応する学習項目の用紙、社会・文化情報も参照して内容を検討した 能力評価の生活上の行為の事例一覧、能力記述の一覧などを参照し、内容を検討した		
事業終了後の教材活用	初級、中級、上級にレベル分けしたクラスのうち、中級レベルのクラスで教材として活用した		
成果物のリンク先			

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業の目的は、令和元年度に取り組んだ日本語教育事業の成果を発展させ、東京都内を中心とした在留ミャンマー人が、エスニックコミュニティ内で閉ざされた生活を送るのではなく、日本語で地域の人たちと意思疎通し、社会の一員として生活を送ることができるようにすることであった。

具体的には、以下の3点であった。

- (1) 東京都及び近郊に暮らすミャンマーの人たちが通いやすい、日曜夕方に開講する。ミャンマーの人たちの日本語レベル、ニーズに対応した日本語学習の機会を確保する。難民として暮らす人たちに学びなおしの機会を提供する。
- (2) 在留ミャンマー人の中から、日本語教育、運営を担う人材を育成するとともに、独自の教材を作成し、自立した運営モデルを確立する。
- (3) 日本語教室の場に地域住民や企業、大学生、教育関係者を招いて講師となっていたり、ワークショップを開催するなど、相互に学びあう地域社会との対話の拠点を整備する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、これまでにない困難な状況に直面した。内容についても、一部、オンラインの導入など当初の予定と異なることとなった。アンケート及びヒアリングによって検証した。日本語教育においては、1)オンラインの活用も含め、ミャンマー難民、コミュニティの人々が参加しやすい学習環境を構築した。2)生活に密着し、かつ新型コロナウイルス感染症への対応など必要な生活情報・行政情報にアクセスできるようになり、生活状況の維持につながることに役立った。日本語教育人材の養成については、コミュニティリーダーの日本社会における理解と、留学やビジネスで滞在している人たちの経験知を共有しつつ、日本語を教える際に必要な基礎的なスキルを獲得することができた。教材については受講生のモチベーション維持と、日常生活改善に役立つ学びの提供を実現できた。

新型コロナウイルス感染症の拡大を背景に、標準的なカリキュラム案のコミュニケーションの中で日本語を学ぶことができる、という点は役立った。日常生活に根差したコミュニケーションは、新型コロナウイルス感染症の拡大のような危機にあって、地域社会の中で身を守り、生活を守るために必要不可欠であると改めて理解した。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

新型コロナ感染症の影響を受け、地域との連携に関しては断念せざるを得ない局面があった。一方でワクチンの接種や給付金の受給など、生活に密着した情報を学びの中に埋め込むことで、新宿区や保健所などニーズに即した連携が進んだことが大きな成果である。それは、学習者を中心としてエスニックコミュニティ内に、新型コロナウイルス感染症とその対策に関する正しい知識の伝達という面でも効果があったと考える。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

受講生の日本語が上達したことが周知・広報の最大の強みである。受講生の生活拠点を中心として、受講生自身がメディアとなり、事業の成果を発信した。また、日本語教育拠点とのネットワークが徐々に構築され、成功モデルの一つとしてオンラインシンポジウムでの報告や、ヒアリングへの協力など知見を提供できた。

(6) 改善点、今後の課題について

繰り返しとなるが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年であった。その中で、いかに生活の現場を守りつつ学習を進めていくかが課題となった。オンラインの活用も試行したが、対応できない学習者も存在した。今後の課題として、より参加しやすい教室運営となるよう、授業の進め方、デバイスのあり方など検討が必要である。日本語教室は、エスニックコミュニティの人たちと日本社会が出会う最前線の一つであり、そこで新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を伝えることができたように、危機を想定し、エスニックコミュニティ内、地域コミュニティ内でリーダーとなるような人材の育成につながることも一つの課題である。

(7) その他参考資料